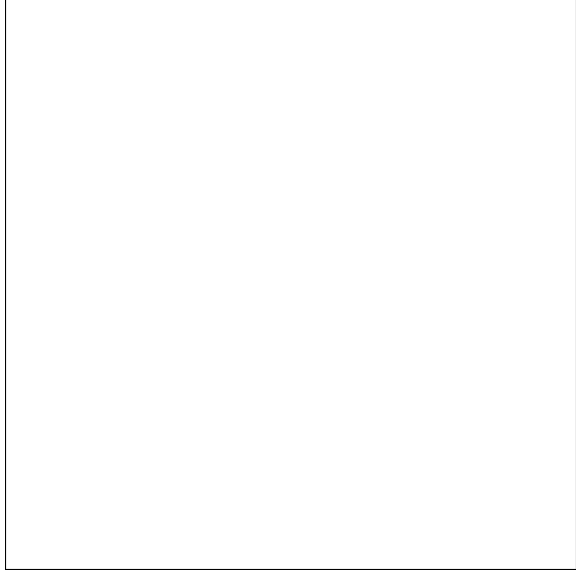




(utan bilder)

✎ Adelheid Marie Bwire
🔊 Melany Pietersen
📄 Noriko Shibata
💬 japanska
📖 nivå 2



お仕置き



Sagor för barn på svenska

berattelser.se

お仕置き

Skriven av: Adelheid Marie Bwire
Illustrerad av: Melany Pietersen
Översatt av: Noriko Shibata

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons

[Erkännande 3.0 Internasjonal Licens.](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv)

<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv>



ある日、お母さんは、果物をたくさん
手に入れました。

「私たち、いつ果物を食べられるの?」と尋ねると、お母さんは「今夜にでも食べましょう」と言いました。



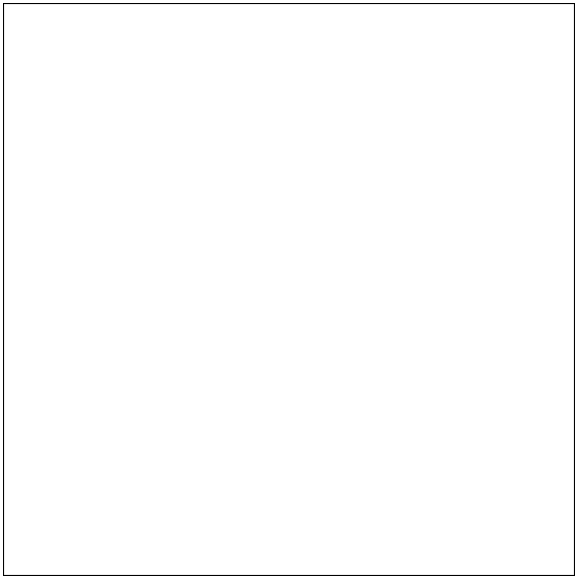


お兄ちゃんのラヒームは、食いしんぼう。全ての果物を味見して、たくさん食べてしまいます。

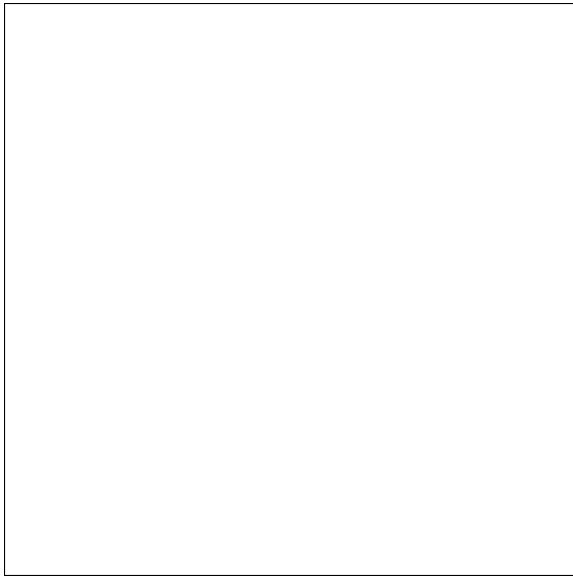


その後、ラヒームはみんなに謝りました。「僕はもう二度と欲張ったりしないよ」と約束し、みんなもラヒームを信じることにしました。

「ほら見て、ラレームったら!」弟が
叫んでいます。「ラレームはお行儀が
悪くて、わがままなのよ」と私は言い
ました。



お母さんは、こうなることがわかって
いました。果物は、ラレームにお仕置
きをしているのです!



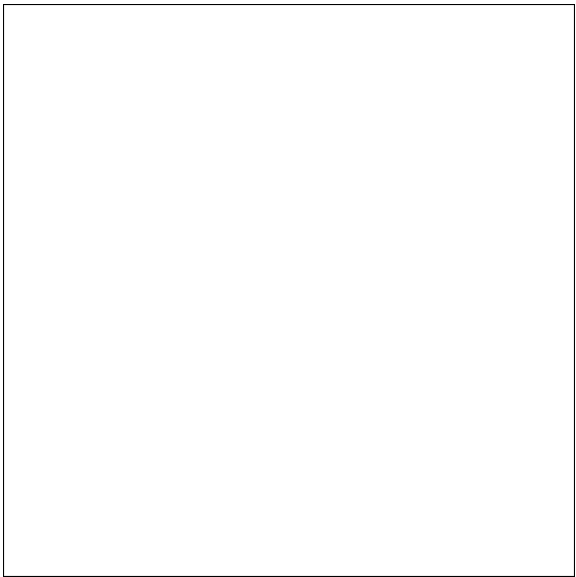


お母さんは、ラヒームのことを怒っています。

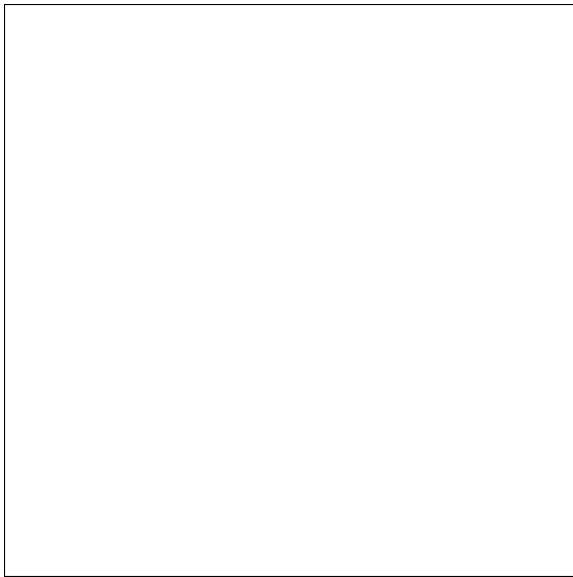


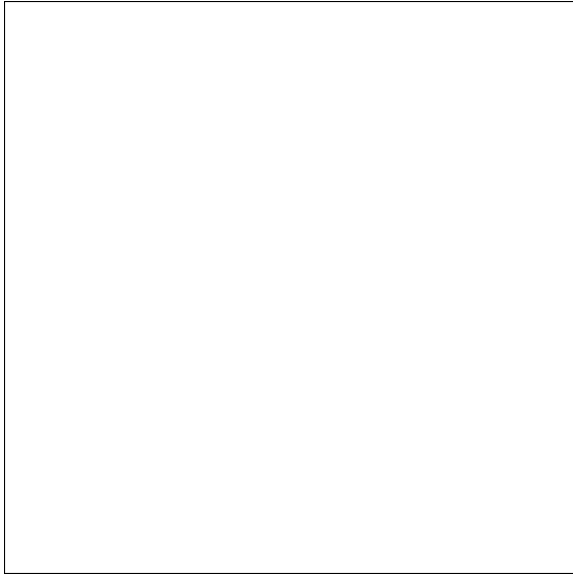
「おなかがとても痛いよ」と小さな声でささやきました。

私たちもラレームに腹を立ていま
す。でも、ラレームは自分のしたこと
を悪いと思つていません。



ラレームは、気持ちが悪くなり始めま
す。





「ラヒームにお仕置きをしないの？」
弟は、お母さんに尋ねました。



「ラヒーム、もうすぐ自分のしたことを後悔するわよ」とお母さんは、言い聞かせました。